

一橋政策フォーラム

一大震災からの復興を考える

一橋大学
大学院経済学研究科
国際・公共政策大学院
田近栄治
eiji.tajika@r.hit-u.ac.jp
2011年5月26日

一橋大学政策フォーラム： 研究成果の社会への発信

- 長い経済停滞、経済的・政治的な混迷。そのなかで、日本は新しい経済成長の原動力と世界政治における貢献のあり方を模索。
- 次の日本を目指して、一橋大学の研究者の企画による政策発信を行うことを目的としている。
- 各分野の第一人者や政策の最前線の人たちとの討論を経て、研究成果を研ぎ澄まされた政策として発信することを目指す。

これまでの活動

- 第1回 2010年9月28日(火)「年金の将来」
- 第2回 12月11日(土)「イノベーションと日本の活力」
- 第3回 12月15日(水)「成長戦略の再検討」
- 第4回 2011年1月22日(土)「東アジアにおける製品
開発と人材マネジメントー日本・韓国・中国企業の比較
分析ー」
- 第5回 2月24日(木)「等身大の人間行動を考えた地
震リスクマネジメント」
- 第6回 3月7日(月)「大企業の自己革新と脱成熟化」

「年金の将来」

— 信頼できる年金制度の構築を目指して —

2010 年 9 月 28 日

山内 進(一橋大学理事・副学長)

古川元久(内閣官房副長官)

高山 憲之(一橋大学特任教授)

西沢 和彦(株式会社日本総合研究所主任研究員)

(一橋大学世代間問題研究機構特任講師)

井堀 利宏(東京大学大学院経済学研究科教授)

稲垣 誠一(一橋大学世代間問題研究機構教授)

高橋 進(株式会社日本総合研究所副理事長)



2010 一橋大学政策フォーラム

●討論会●



世代間問題研究機構 金の来 年 将 ～価値できる年金制度の 構築を目指す～

公的年金の守備範囲を きめ細かく考える

問題をタビ視しない

●討論会●
小堀 年々年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

年金改革について ～超党派で新しい年金制度をつくる～



内閣官房副長官
古川元久氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

●討論会●
小堀 年金の重要性が叫ばれていく中で、年金制度の持続可能性を確保することが喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、世代間問題研究機構の研究成果を踏まえ、公的年金の守備範囲をきめ細かく考えることを目指す。

●司会●
西山憲之氏
高木和彦氏
井堀利宏氏
稲垣誠一氏
小堀隆士氏

主催：一橋大学 <http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html>
お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム TEL 042-580-8053

「イノベーションと日本の活力」

2010年12月11日

開会挨拶 米倉 誠一郎 一橋大学イノベーション研究センター長

基調講演 「チャンス逃すな」

安藤 忠雄 建築家、東京大学名誉教授

【環境と経済を両立させるイノベーション】

野中 ともよ NPO法人ガイア・イニシアティブ代表

米倉 誠一郎 一橋大学イノベーション研究センター長

江藤 学 一橋大学イノベーション研究センター教授

長岡 貞男 一橋大学イノベーション研究センター教授

楡井 誠 一橋大学イノベーション研究センター准教授

【日本企業のものづくり力とイノベーション】

延岡 健太郎 一橋大学イノベーション研究センター教授

青島 矢一 一橋大学イノベーション研究センター准教授

軽部 大 一橋大学イノベーション研究センター准教授

中馬 宏之 一橋大学イノベーション研究センター教授

西口 敏宏 一橋大学イノベーション研究センター教授

閉会挨拶 米倉 誠一郎 一橋大学イノベーション研究センター長

「成長戦略の再検討」

日時 2010年12月15日

開会挨拶 田近栄治(一橋大学経済学研究科 教授)

「成長戦略の再検討:問題提起」

北村行伸(一橋大学経済研究所 教授)

「成長戦略と日本経済再生の原動力」

深尾京司(一橋大学経済研究所 教授)

「成長戦略の有効性を問う-産業構造の転換と企業活動の活性化の視点から」

宮川努(学習院大学経済学部 教授・副学長)

「成長戦略としての法人税減税」

田近栄治

「成長戦略と雇用・人材育成政策」

川口大司(一橋大学経済学研究科 准教授)

閉会挨拶 深尾京司

「東アジアにおける製品開発と人材マネジメントー 日本・韓国・中国企業の比較分析ー」

2011年1月22日(土)

基調講演

・藤本隆宏氏(東京大学大学院経済学研究科・教授)

研究概要

・都留康氏(一橋大学経済研究所・教授)

研究成果発表

・徳丸宜穂氏(名古屋工業大学大学院工学研究科・准教授)

・馬駿氏(富山大学経済学部・教授)

・尹諒重氏(名古屋商科大学経営学部・専任講師)

・都留康氏(一橋大学経済研究所・教授)

・福澤光啓氏(東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター・特任助教)

・守島基博氏(一橋大学大学院商学研究科・教授)

2010年度一橋大学政策フォーラム

一橋大学の研究者が主要分野への政策発信を目的に昨年からは開催している「2010年度一橋大学政策フォーラム」。今回は同大国際共同研究センターでの研究成果を基に「東アジアにおける製品開発と人材マネジメント」をテーマに開催した。自身前で「製品・サービスイノベーションへの取り組み」「開発組織体制」などでどんな違いが見られるか、国際比較から政策提言の方向性を議論した。

事例研究！ 携帯電器開発の
3力図比較



オープン化が第一であり、海外の高級ホテルでも、エグゼクティブ・キヤパシティ、一階層階席と人材がビジネスの戦略的選択がビジネスの成功を大きく左右する。この様な大企業、中企業、小企業を比較すると、中企業に多いとされているのが、

[illegible]

液晶テレビ開発の
3力図比較

[illegible]

が鍵

駿良

「日本は、戦後、アメリカの援助で、経済的に飛躍的に発展した。これは、アメリカの援助が、日本の経済発展に、大きな役割を果たしたからだ。しかし、戦後、日本は、アメリカの援助に、依存しすぎて、自国の経済力を、十分に伸ばすことが、できなかった。これは、日本の経済発展に、大きな障害となった。だから、日本は、戦後、アメリカの援助に、依存しすぎず、自国の経済力を、十分に伸ばすことが、必要だ。これは、日本の経済発展に、大きな鍵となる。だから、日本は、戦後、アメリカの援助に、依存しすぎず、自国の経済力を、十分に伸ばすことが、必要だ。これは、日本の経済発展に、大きな鍵となる。」

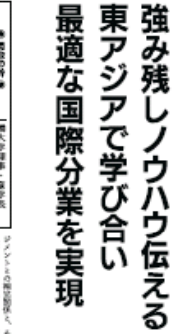
製品開発の視点からの
コメント



その際には、アーサー・サッ

[illegible]

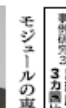
強み残しノウハウ伝える
東アジアで学び合い
最適な国際分業を実現



小川英治氏
世武の製品開発拠点に成長しつつある同社、横浜の電子・電機関連企業を取り上げた雑誌記事「フューナダ」(2月)と関係が深い。人材を

東アジアにおける
製品開発と
人材マネジメント

～日本・韓国・中国企業と比較分析～



サマーは基本的にモジューラー
型の機軸を助つて、近年のオ
ーブン化に伴うインターアス
ーヌの簡便化が加わることで
モジューラー間のすり合わせに

門知識重要に
北北経済科大学
経済学部専任講師
尹 諒重氏
モダン・レバレッジの活用は社
会の発展を促すと見られ、ユ
ーエスの両利関係のため、研
究は必要とオンライン教育が盛
んになるなど見られている。中国で
も専門分野を伸ばすことに興味
が、それと対し、日本では
研究の範囲の拡大がスズカに

戦略でアーキテクチャー選択
人材マネジメントの調整を

[illegible]

出する。それによつて製造小賣の取引
 額に於てはこれまでと同様に同位
 であることが見て取れる。従つて
 戦時に對しては、武裝輸入材
 及び少シの非武裝輸入材を以て
 輸入品と見做さなければならぬ。主として輸入品
 には、その研究費が少なからず、プロ

二つに分類せられ、製造額が殆ど
 輸出に於ける輸入を超過するもの
 がある。他は、輸入額が超過するもの
 である。従つて、輸入品は、輸入額
 を超過するものと輸入額を超過する
 ものとに分けられ、輸入額を超過する
 ものは、輸入品と見做さなければならぬ。

戦時に對しては、武裝輸入材
 及び少シの非武裝輸入材を以て
 輸入品と見做さなければならぬ。主として輸入品
 には、その研究費が少なからず、プロ

戦時食糧の消費
 一橋大学

[illegible]

廣告

主催：一橋大学 <http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html>

お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム TEL 042-580-8053

※次回の一般大学政策フォーラム開催は、2月24日(木)を予定しております。

等身大の人間行動を考えた 地震リスクマネジメントのすすめ

2011 年 2 月 24 日

プロスペクト理論とマンションの耐震性能の選択
中川雅之(日本大学経済学部教授)

空間認識と耐震性:アイトラッカーを用いた研究
竹内 幹(一橋大学大学院経済学研究科講師)

公的地震保険の普及促進に向けて
佐藤主光(一橋大学大学院経済学研究科教授)

等身大の人間行動を考えた地震リスクマネジメント
齊藤 誠(一橋大学大学院経済学研究科教授)

大企業の自己革新と脱成熟化

2011 年 3 月 7 日

開会挨拶 沼上 幹(一橋大学大学院商学研究科・教授)

橘川 武郎(一橋大学大学院商学研究科・教授)

「『失われた 20 年』と日本企業の自己革新」

島本 実(一橋大学大学院商学研究科・准教授)

「出光興産の自己革新(1): 上場への道のり」

平野 創(成城大学経済学部・専任講師)

「出光興産の自己革新(2): 出光石油化学との経営統合」

報告者全員による討論会

「大企業の自己革新と脱成熟化」

講演

天坊 昭彦(出光興産株式会社代表取締役会長)

閉会挨拶 沼上 幹

大震災からの復興を考える

緊急課題への機動的な対応

- 復興問題の本質の解明と説明
- 復興政策の形成への社会的貢献
- 公開討論による参加者と一体の進行

プログラム

- 14:00—14:05 開会挨拶(田近栄治 一橋大学前副学長・大学院経済学研究科教授)
- 14:05—14:20 問題提起(北村行伸 一橋大学経済研究所教授)
- 14:20—14:45 「震災復興のビジョンと財源:事前の復興と国民の連帯」(田近栄治)
- 14:45—15:10 「震災と財政を巡る今後の課題」(小黒一正 一橋大学経済研究所准教授)
- 15:10—15:35 「大震災後の経済政策と復興支援」(小林慶一郎 一橋大学経済研究所教授)
- 15:35—15:45 休憩
- 15:45—16:10 「東日本大震災からの経済復興の課題と提言:復興に向けた8カ条」
(佐藤主光 一橋大学大学院経済学研究科教授)
- 16:10—16:35 「震災前の経済状況に遡って震災後の経済復興を考える:
関東大震災後の経済政策の失敗を踏まえて」(齊藤誠 一橋大学大学院経済学研究科教授)
- 16:35—17:00 休憩
- 17:00—17:55 ディスカッション(コーディネーター:北村行伸、参加者:田近栄治、小黒一正、小林慶一郎、
佐藤主光、齊藤誠)
- 17:55—18:00 閉会の辞(北村行伸)

一橋大学政策フォーラム ウェブサイト

URL: <http://www.hit-u.ac.jp/academic/index.html>

E-mail: res-info.g@dm.hit-u.ac.jp

TEL: 042-580-8053 Fax: 042-580-8050